

開

「……で、だ。俺はこの村の中に、オオカミがいると思うんだ」
店主／アルヴァンは、長々と噂話を並べ立て、最後にそう宣言しました。

「なにがどうなってそういう結論になるのかわからない」
正面で黙々と酒を飲んでいた鍛冶／ドミノが言います。

「だって、まだ逃げてるんだろうそのオオカミ！反対方向の街には優秀な狩人がいるって話だし、捕まってないならこの村にいてもおかしくない！」

大演説を始めそうな勢いを見かねたのか、司祭／マキシアが言いました。

「オオカミだと思っひとのお話を聞いてみては？
私も外の者ですが、話せば潔白だとわかってもらえると思うので」

店主／アルヴァンは目を輝かせ、その意見に同意しました。

「ちょうどこの時間に来てるやつらにあたりを付けてたんだ！
ほかは爺婆連中だから、化けるにしても動きづらいだろうしな」

すみっこの席でのんびりと食事をとっていた魔女／リタと
新顔／ラウルは突然の事態に目を丸くします。

「え、何が始まるのかな？あんまり穏やかじゃなさそうだけど……」
「……だいじょうぶ。魔女／リタは私が守るから」

そしてドアベルをからころと鳴らし、行商／シュクルがやってきました。

「ん、あれ？　なんだか不穏な感じ？」
「そんなことはないぞ！ちょうどいい、お前も混ざれ！」

かくして、『話し合い』が始まりました。